

「楽しい」から集まる、「楽しい」から続く

## 桜上水自治会

会長：渡邊 清さん

上水南町に住み、14年間会長を務める渡邊さんは、地域のお父さんのような存在。取材中も道行く人に気さくに声をかけ、通りがかった人が挨拶していく様子に、こういう町は犯罪も起こらないだろうなあ、と羨ましく感じました。元消防士ということもあり、上水南町エリアの自治会が集まった上水南町自治会連合会では、毎年11月に本格的な防災訓練を行っています。昨年はコロナ禍での避難所運営を検証するために、大小のテントを設営して個々のテントで過ごすスタイルで24時間実施しました。



活動が続くためには「楽しさ」が大事、というお話もうかがいました。来て、見て、「楽しい」と感じてもらえれば、準備や運営も「楽しい」ものになっていくと。例えばこれからなら、お菓子づくりや手芸が得意な人に声をかけてフリーマーケットができれば、若い世代にも喜ばれるイベントになるのではないかと。自治会活動は、駅伝の達成感に似ているのだそうです。それぞれの人が得意分野を活かしてたすきをつなぎ、想いを共にゴールへ走る……。とても素敵な言葉だと思いました。(坂)



## 自治会案内

### 桜上水自治会

上水南町1丁目15番～30番、2丁目1番、3番～4番、7番～17番、21番～30番  
世帯数：624世帯  
会費：年2,600円  
上水南町自治会連合会 <https://jyojyotowns.com/>

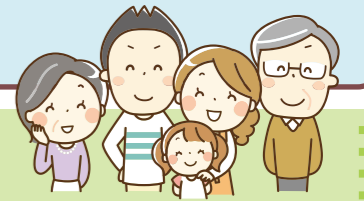
### 富士見住宅自治会

小川西町5丁目39番  
世帯数：326世帯  
会費：月1,500円(共益費を含む)

### たかの台自治会

たかの台8番、45番を除く全域  
世帯数：243世帯  
会費：月200円  
<https://takanodaijichikai.jimdofree.com/>

\*市内の自治会は『自治会マップ』で検索できます  
<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/079/079074.html>



## 地域連絡会が2か所で開催

小平市には、現在、学園西町と学園東町に地域連絡会があります。

会の趣旨は、各団体の役割についての理解と協力、地域情報や地域課題、地域に係る行政情報の共有。これまでに、地域の居場所づくりや地域防災計画づくり、見守り活動の情報共有など多方面で成果を上げてきました。メンバーは、町会・

自治会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生・児童委員、高齢者クラブ、地域の小中学校、PTA、青少対、商店会、NPO・あすぴあ、個人など。コロナ禍でしばらくお休みしていましたが、先日10カ月ぶりに開催されました。テーマは「コロナ禍を経験して」。実際の集まりとオンライン(Zoom)の併用開催でした。

### ◎学園西町地区地域連絡会

日時：2021.12.8(水) 18:00～  
場所：学園西町地域センター

自治会は、イベントは自粛しつつも敬老祝や出産祝は実施。民生・児童委員は、訪問活動ができず電話相談などでつなぎ、コロナ禍で逆に活動せざるを得ない状況だったそうです。

地域の居場所も現在再開の時期を検討中とのこと。子どもたちは修学旅行も中止になり、青少対も1年目はすべての活動が中止でしたが、昨年は6月に町会とコラボしてゴミ拾いを実施したところもあり、今後はコロナありきの活動を考えねばと話されていました。

後半の意見交換では、避難所運営マニュアルや増え続ける空き家問題について話が盛り上がりました。(田)

### ◎学園東町地区地域連絡会

日時：2021.12.9(木) 18:00～  
場所：学園東町地域センター

コロナ禍のために事業がほとんどできずに困っていたようですが、10月以降、感染者数が沈静化してきたこともあって、少しだけ日常の活動を戻しつつあるとの報告があいつぎました。11月の自治会防災訓練に150名以上の方々に参加されたこと、感染に注意しながらの運動会や学芸会の実施などの報告もありました。地域の居場所がボランティアの協力で再開できたとの報告もありました。

当分はこういった状況が続いていこうけれども、つながりや心の安らぎを考えると、事業をまったく中止してしまうわけにはいかない、それぞれの工夫を出しあうことで、今後のイベントなどに活かしていこうということになりました。(伊)

イベントを通じて、地域の交流を深めます

## 富士見住宅自治会

会長：江原 薫さん

小川西町の富士見住宅自治会の会長を20年以上も続けている江原さんは、女性ということで、当初は大変でしたが、今は、イベント・サロン・防災訓練など活発に活動をして、自治会ニュースも毎月発行しています。



を実施し、老若男女が楽しんでます。

また、防災にも力を入れていて、発電機・投光器・担架・石油ストーブ・紙おむつ・水・簡易トイレなどを備蓄しています。防災訓練では、消防署などの協力を得て初期消火訓練をし、安否確認のために黄色のステッカーを作って、それを玄関に貼り無事であることを示す訓練もしました。これからは、備蓄物の中に、女性の必需品を追加することも考慮中です。

コロナ禍で活動が出来ない時に、各世帯に「マスク1箱・除菌ティッシュ」を配布し、地域の人を楽しませようと、集会所の周りにイルミネーションを飾ったり、花壇に花を絶やさないようにしたりしています。江原さんと自治会会員の協力・実行力が地域と世代間の交流へと、つながっています。(安)

また、東京都地域の底力発展事業助成に応募して、助成金を得て役立てています。富士見住宅自治会は、本事業助成に「食文化とスポーツを通し地域交流の向上を図る事業」を計画し、「小平糧うどん」「祭り(よさこい、郷土踊りなど)」「ミニミニ運動会」「模擬店」

HPのある自治会

## たかの台自治会

会長：桃木弘治さん

会長をしている桃木さんは「自治会は、地域のために善意の奉仕活動をする共助の組織」と話されました。参加している世帯は地域に住む人の3割ぐらいだそうです。「年々、参加する人が減っています。自治会がなくても困らない人が多いようです。」



る要望を行政に行う、⑥行政や警察などからのお知らせを回覧する、⑦社会福祉協議会や赤い羽根共同募金などに寄付する、⑧防災訓練や防災セミナーの開催。

桃木さんは、自治会のホームページをつくり、自治会でやっていることや役員会の報告、会員のお店の紹介などを載せています。やさしくて、読みやすいので会員に喜ばれているようです。共助の気持ちで役割を分担すると、だれもが自治会で活動できるのです。

新府中街道ができたり、津田梅子のドラマができたら鷹の台に来る人が増えそうですし、大きなスーパーが鷹の台にできたら町は変わります。町が変われば、住んでいる人の暮らしも変わります。そうなれば自治会も変わります。桃木さんは、その日まで、たかの台自治会の改善を進めます。(北)

桃木さんによると、自治会の活動は次の8項目に分けられます。①消火器、街路灯の管理、②不測の災害に備えて防災備品の管理、拡充、③隣近所で問題が起きた時の相談、対応、④地域内の学校、団体、企業への要望、問題解決、⑤道路や地域の施設、設備に対す

## 自治会と自主防災組織と防災危機管理課

自治会も含め市民の防災に対する関心は高い。そこで、防災危機管理課の本橋さんと櫻井さんにお話を聞きました。

市役所には各課の仕事内容を市民に知らせる「なるほど! 出前講座 デリバリーこだいら」があります。中でも防災危機管理課の「家庭と地域における地震対策」が多く申込まれるということです(コロナ禍のため、このところ少ない)。申込み者には自治会関係者も多いそうです。

2020年12月に開催された地域懇談会はテーマが2種類あり、そのうち1つが女性限定で実施され、自治会の防災担当の女性も出席していました。同性だけで気兼ねなく意見を出しあえる場を設置し、防災計画などに女性の視点を取り入れるという主旨で実施したとのことでした。講座後、避難所管理運営マニュアル作成に参加してみたい、という感想もあったようです。マニュアル作成にあつ

ては、小平市も東京都も国も多様な視点を入れるようにという考えになっています。

自治会に限らず近隣の50世帯以上が集まれば、自主防災組織をつくることができます。現在、自主防災組織は73団体。2021年夏からは、同じ地域に住む10世帯以上から結成できるようになりました(隣り合った自治会合同でも可)。また、自治会組織がない地域でも結成できます。防災危機管理課では相談も受け付けています。(谷)



▲避難所設営訓練の様子

防災危機管理課(市役所3階)  
電話 042-346-9519